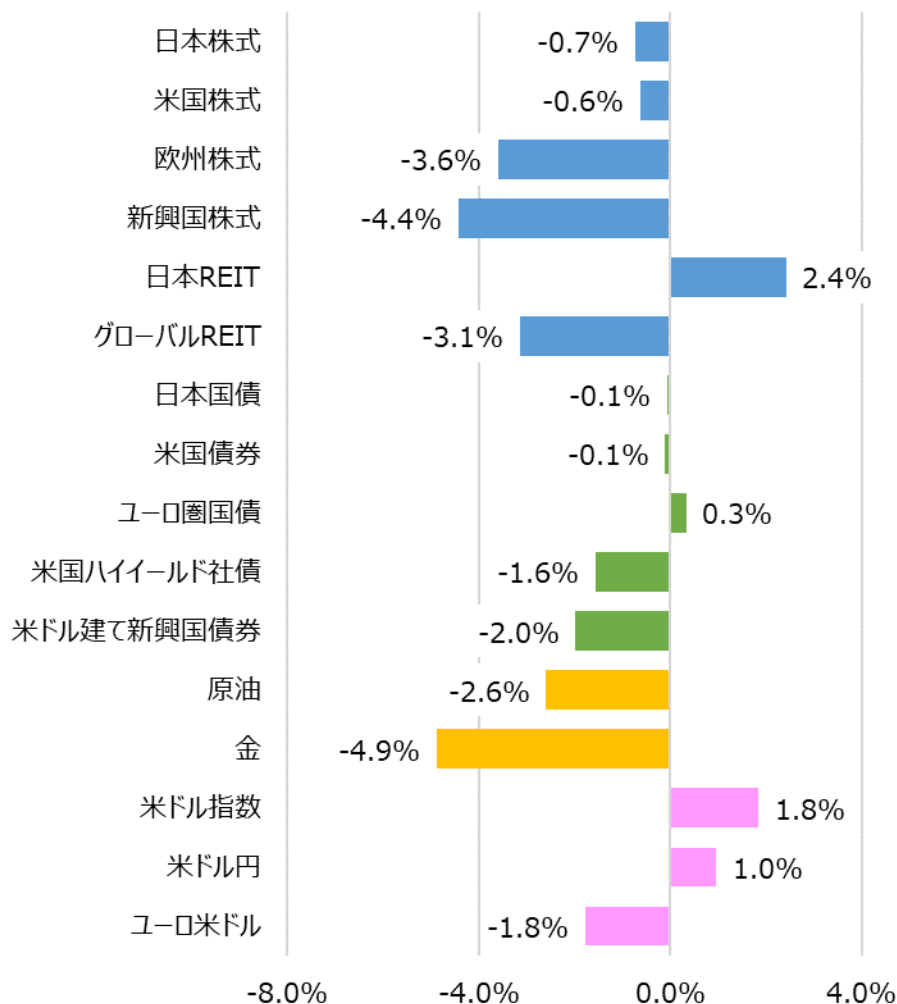




Weekly Market Review

期間：2020年9月21日～9月25日



【日本株式】

米追加経済対策への期待剥落や欧州の再度の行動規制強化などから投資家のリスクテイク姿勢は後退しましたが、富士フィルムが新型コロナウイルス治療薬の承認を10月にも申請すると発表したことや、9月末の配当狙いと見られる買いなどが下値を支えました。

【米国株式】

欧米でのウイルス感染再拡大に加え、追加経済対策を巡る与野党対立が激しさを増し、年内の成立は困難との見方が支配的になりました。**連邦最高裁判事の死去にともなう後任候補の指名を巡っても与野党が対立し、経済対策での歩み寄りを阻むと警戒**されました。ただ、コロナ禍でも業績拡大が期待される主力ハイテク株は18日に大幅高となり、NASDAQ総合指数は+1.1%と反発しました。中古住宅販売件数や新築住宅販売件数、米連邦住宅金融庁発表の全米住宅価格指数など住宅関連指標が好調だったことも相場を支えました。

【欧州株式】

ウイルス感染者数の増加に歯止めがかからず、スペインやフランス、英国などで行動規制が強化されました。**ユーロ圏や英国のマークイット企業景況感指数が前月比で低下し、英政府が発表した労働者支援策が期待外れの内容だったこと**もあって、経済正常化への道のりは険しいと警戒されました。**国際的な大手金融機関が違法性が疑われる資金移動（マネーロンダリング）**に関わっていたと報じられ、銀行株が大幅安となったことも相場の下押し圧力になりました。

【新興国株式】

世界景気の先行きに不透明感が増し、コモディティ価格が軟調に推移していることもあって新興国から投資資金が流出しました。中国、韓国、台湾などアジアの主力ハイテク株が売られ、相場を押し下げる要因となりました。一方、トルコでは通貨防衛に迫られる中銀が政策金利を約2年ぶりに引き上げたことで通貨リラ安が一服し、株式市場でもこれが好感されました。

【日本REIT】

各国金融当局が低金利政策の長期化や追加緩和策の導入検討などを表明したことから、**配当利回りの高さが改めて評価**され、堅調に推移しました。資金借り換えを発表したアドバンス・レジデンス投資法人など住宅用REITの上げ幅が大きくなりました。

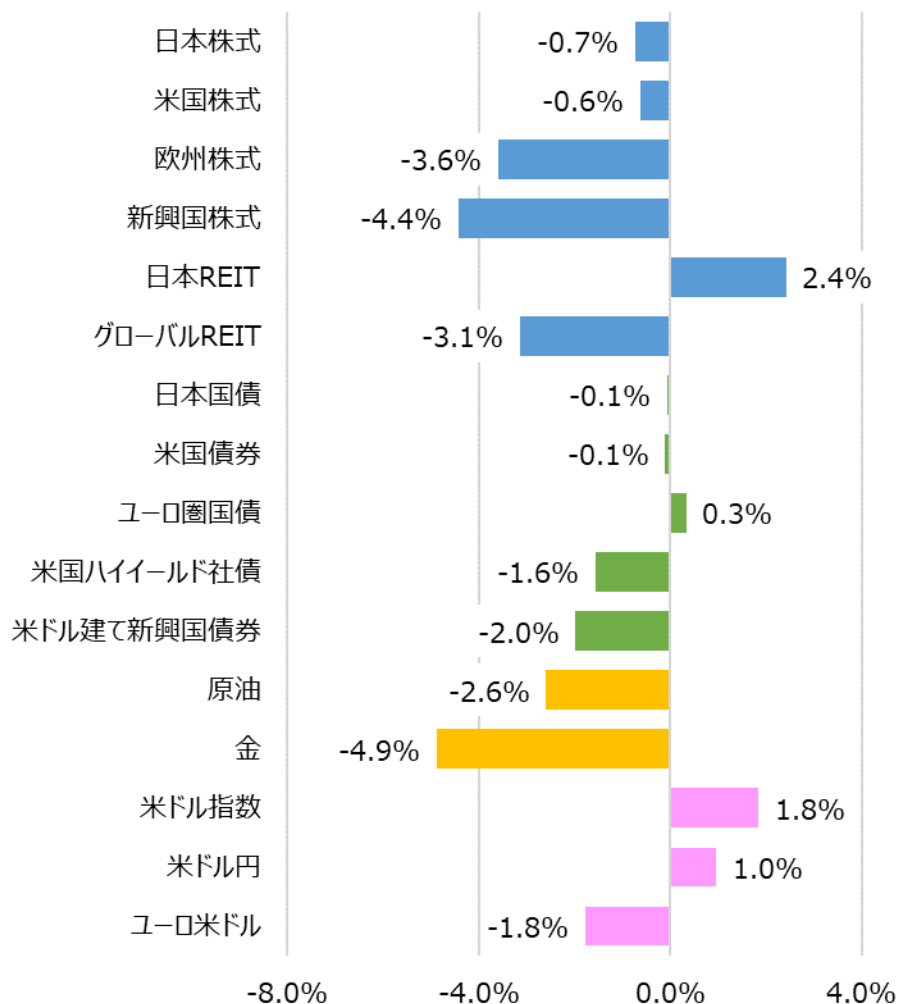
【グローバルREIT】

欧州での行動規制強化の動きから欧州各国が軒並み大幅安となり、用途別ではホテル・リゾートやリテールREITの下げ幅が大きくなりました。米住宅関連指標が良好だったことで、米住宅用REITは小幅な下げにとどまりました。



Weekly Market Review

期間：2020年9月21日～9月25日



【日本国債】

新規の取引材料に乏しく、小動きに終始しました。40年国債入札は無難な結果でした。

【米国債券】

堅調な住宅関連指標や米ジョンソン&ジョンソンがウイルスワクチンの最終治験を開始したと発表したことなどが売り材料視される一方、パウエルFRB議長が議会証言で経済見通しの不確実性に言及したことや、失業保険統計で新規申請件数、継続受給者数ともに予想を上回ったことなどが下値を支えました。5年及び7年国債入札では堅調な需要が確認されました。

【ユーロ圏国債】

行動規制の強化や株式市場の下落から逃避需要が増大し、中核国債市場に資金が流入しました。ただし、ドイツのIFO企業景況感指数とフランスの国立統計経済研究所企業景況感指数がともに5カ月連続で改善したことで上値が抑えられました。周辺国債も堅調でした。イタリアでは、連立与党が公約として掲げた議員定数削減の国民投票が可決され、同時に行なわれた州知事選挙でも与党が接戦州を制するなど優勢となり、政治不安の後退が買い安心感に繋がりました。英国では、ベイリー英中銀総裁がマイナス金利の早期導入に慎重な見方を示したことで同国の長期国債利回りはほぼ変わらずでした。

【米国ハイールド社債】

株式市場が軟調だったことからハイールド社債市場も冴えない動きでした。原油価格の下落からエネルギーセクターが、ウイルス感染者数の再拡大から消費関連銘柄が売られました。

【新興国債券（米ドル建て）】

米国国債との利回り格差（クレジット・スプレッド）が拡大し、軟調でした。政策金利を引き下げたメキシコやコロンビアが、通貨安による対外債務の負担増懸念から下落しました。4-6月期GDPが前期比で3四半期連続の縮小となったアルゼンチンも冴えない動きでした。

【コモディティ（金・原油）】

金は米実質長期金利の上昇や米ドル高などから下落幅が大きくなりました。米株式市場が下落する局面では換金売りに押されました。原油はウイルス感染の再拡大により需要が伸び悩むとの観測から軟調でした。ただ、米原油やガソリン在庫の減少が下値を支えました。

【米ドル指数】

欧米での感染再拡大や株式市場の下落から、リスクヘッジ目的の米ドル買いが優勢でした。リスクオフ時に買われやすい円も米ドル買いに押されました。ユーロの下げ幅が大きくなり、英ポンドや新興国通貨も売られました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※ 文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ